

口語英語研究 (10)

提案の表現に関して (1)

木戸 充*・Stuart J. SANDERSON**

*日本獣医生命科学大学 英語学教室

**Sanderson English School

要 約 本稿は提案を意味する英語の口語表現についての考察である¹⁾。本稿の目的は、12の提案の表現①“Let’s ~.” / ②“Shall we ~?” / ③“Why don’t we ~?” / ④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?” / ⑦“Why don’t you ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” / ⑩“Shall I ~?” / ⑪“Would you like me ~?” / ⑫“Do you want me ~?” に関して、それぞれのニュアンスの相違や用いられる状況の相違などを明らかにすることである。なお、木戸・Sanderson (2009-2017)と同様、本稿は日本語を母語とする者と英語を母語とする者の長時間にわたるディスカッションを基にして書かれている。

キーワード：let’s, shall, 提案

日獣生大研報 67, 44-55, 2018..

1. はじめに

本稿において提案の表現とは①“Let’s ~.” / ②“Shall we ~?” / ③“Why don’t we ~?” / ④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?” / ⑦“Why don’t you ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” / ⑩“Shall I ~?” / ⑪“Would you like me ~?” / ⑫“Do you want me ~?” を指す。本稿の目的は、この12の提案の表現のニュアンスの相違や用いられる状況の相違を検証することである。検証する状況は、we (話し手と相手) の行為をI (話し手) がyou (相手) に提案する場合、I (話し手) の行為をI (話し手) がyou (相手) に提案する場合、you (相手) がものの提供を受けることをI (話し手) がyou (相手) に提案する場合、you (相手) の行為をI (話し手) がyou (相手) に提案する場合である。

[ex.1](3) で A は B に “Then, *let’s* go to the cinema

[ex.1] A と B の会話。A と B は親しい友人同士。

A : ① “Kevin, are you doing anything tonight?” (ケビン、今夜は何か予定あるのかな)

B : ② “Not really. Maybe I’ll go home and watch TV.” (特にないよ。家に帰ってテレビを見るぐらいだね)

A : ③ “Then, *let’s* go to the cinema together²⁾.”

The new Spielberg film is on now.” (じゃあ、いっ

しょに映画に行こうよ。新しいスピルバーグの映画が封切られているんだ)

B : ④ “Sounds great.” (いいね)

together.” と言って、いっしょに映画を見に行くことを提案している。これに対して [ex.1](4) で B は “Sounds great.” と応えて、その提案を受け入れている。したがって、この後話し手と相手はいっしょに映画を見に行くことになる。

[ex.1](3) では “Then, *let’s* go to the cinema together.” の代わりに “Then, *shall* we go to the cinema together?” / “Then, *why don’t* we go to the cinema together?” / “Then, *what do you say to* going to the cinema together?” / “Then, *how about* going to the cinema together?” / “Then, *what about* going to the cinema together?” / “Then, *why don’t* you come to the cinema with me?” / “Then, *would you like* to come to the cinema with me?” / “Then, *do you want* to come to the cinema with me?” と言っても、話し手と相手がいっしょに映画を見に行くことを提案していることになる³⁾。このように we (話し手と相手) がいっしょに行う行為を提案するときには、①“Let’s ~.” / ②“Shall we ~?” / ③“Why don’t we ~?” / ④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?” / ⑦“Why don’t you

～?” / ⑧“Would you like ～?” / ⑨“Do you want ～?”
が使われることがある。

[ex.2] A と B の会話。A と B は親しい友人同士。

A : ① “Dave, it’s raining now.” (デーブ、今雨が降っているよ)

B : ② “Oh, really?” (えっ、本当に?)

A : ③ “I’m leaving in a minute. Shall I drive you home?” (もう帰るところなんだ。車で家まで送って行こうか)

B : ④ “Thank you, Steve.” (ありがとう、スティーブ)

[ex.2](3) で A は B に “Shall I drive you home?” と言って、相手を相手の家まで車で送って行くことを提案している。これに対して [ex.2](4) で B は “Thank you, Steve.” と応えて、その提案を受け入れている。したがって、この後話し手は相手を相手の家まで車で送って行くことになる。

[ex.2](3) では “Shall I drive you home?” の代わりに “Would you like me to drive you home?” / “Do you want me to drive you home?” と言っても、話し手が相手のために相手を家まで車で送って行くことを提案していることになる。このように I (話し手) が you (相手) のために行う行為を提案するときには、⑩“Shall I ～?” / ⑪“Would you like me ～?” / ⑫“Do you want me ～?” が使われることがある。

以上のように①“Let’s ～.” / ②“Shall we ～?” / ③“Why don’t we ～?” / ④“What do you say to ～?” / ⑤“How about ～?” / ⑥“What about ～?” / ⑦“Why don’t you ～?” / ⑧“Would you like ～?” / ⑨“Do you want ～?” と⑩“Shall I ～?” / ⑪“Would you like me ～?” / ⑫“Do you want me ～?” はそれぞれ類似しているが、ニュアンスや用いられる状況などにはそれぞれどのような相違があるのだろうか。

第2章では12の提案の表現とその応答として用いられる表現の基本的な意味と用法をまとめる。第3章では提案される行為の意味上の主語の点から12の提案の表現の相違を検証する。第4章では提案される行為の意味上の主語が相手になる場合について検証する。そして、第5章では12の提案の表現が用いられる状況の相違をまとめる。

2. 提案の表現と応答の表現の基本的な意味と用法

12の提案の表現の基本的な意味と用法について [ref.1] にまとめる。

[ref.1] 提案の表現の基本的な意味と用法

① “Let’s ～.”

「～しましょう」という意味の提案の表現。本来 “us (私たちが) let (～するのを許してください)” という命令文であるため、相手の応答を必ずしも必

要としない一方的な響きがある⁴⁾。なお、以下の②から⑫はいずれも相手の応答を求める疑問文であるため、①のような一方的な響きはない。

② “Shall we ～?”

“we (私たちは) shall (～しましょうか)” という意味の提案の表現。正式な表現であるため、かたい響きを持つことがある⁵⁾。

③ “Why don’t we ～?”

本来 “why (なぜ) we (私たちは) don’t (～しないのか)” という否定の疑問文。これが反語になって「私たちは～しませんか」という意味の肯定的な提案を表すことがある。反語には感情的で強い響きがあるため、「～しない理由はない」や「ぜひ～しましょう」のような積極的な気持ちを込めて使われる。

④ “What do you say to ～?”

「～しませんか」という意味の提案の表現。主にアメリカ英語。本来 “to (～に対して) you (あなたは) what (何と) say? (言いますか)” という疑問文。③と同じように積極的な気持ちを込めて使われるが、その積極性は③の方が強い。これは③では述語動詞で提案が述べられる一方、④では述語動詞以外の to 以下で提案が述べられるため。

⑤ “How about ～?”

本来 “about (～について) how (どのように思っていますか)” という漠然とした質問。そのため、「～はいかがですか」という意味の提案を表す場合でも③や④のような強い積極性はない。提案の他、様々な意味で使われる。

⑥ “What about ～?”

本来 “about (～について) what (何を思っていますか)” という漠然とした質問。多くの場合⑤の同意表現になる。ただし、疑問詞 “what” (何なのか) が使われるため、⑤よりも直接的で率直な質問になる。基本的に親しい関係にある人に対して使われる。主にイギリス英語。

⑦ “Why don’t you ～?”

本来 “why (なぜ) you (あなたは) don’t (～しないのか)” という否定の疑問文。これが反語になって「あなたは～してはいかがですか」という意味の肯定的な提案を表すことがある。③に似た表現だが、③の主語は we (話し手と相手)、⑦の主語は you (相手)。⑦は you (相手) を主語とする反語であるため、「あなたは～すべきだ」や「あなたが～しなさい」のような強い義務や感情的な命令を表すこともある。

⑧ “Would you like ～?”

“I would like ～.” という肯定文は「私は～した

い」という I (話し手) の望みを表すが、“Would you like ~?” という疑問文は「～はいかがですか」という you (相手) への提案を表す⁶⁾。仮定法 would を使って you (相手) の like (好み) を尋ねるため、間接的で丁寧な響きがある。

⑨ “Do you want ~?”

“I want ~.” という肯定文は「私は～したい」という I (話し手) の望みを表すが、“Do you want ~?” という疑問文は「～はいかがですか」という you (相手) への提案を表す。⑧に似た表現だが、⑧にない直接的で率直な響きがある⁷⁾。これは直説法 do を使って you (相手) の want (欲求) を尋ねるため。

⑩ “Shall I ~?”

“I (私は) shall (～しましょうか)” という意味の提案の表現。②と同じように正式な表現であるため、かたい響きを持つことがある⁸⁾。

⑪ “Would you like me ~?”

“I would like you ~” という肯定文は「私はあなたに～してほしい」という you (相手) の行為に関する I (話し手) の望みを表すが、“Would you like me ~?” という疑問文は「私が～しましょうか」という you (相手) に対する me (話し手) の行為の提案を表す⁹⁾。⑧と同じように仮定法 would を使って you (相手) の like (好み) を尋ねるため、間接的で丁寧な響きがある。

⑫ “Do you want me ~?”

“I want you ~” という肯定文は「私はあなたに～してほしい」という you (相手) の行為に関する I (話し手) の望みを表すが、“Do you want me ~?” という疑問文は「私が～しましょうか」という you (相手) に対する me (話し手) の行為の提案を表す。⑪に似た表現だが、⑪にない直接的で率直な響きがある¹⁰⁾。これは⑨と同じように直説法 do を使って you (相手) の want (欲求) を尋ねるため。

提案に対する応答としてよく用いられる表現とそれぞれの基本的な意味と用法を [ref.2] にまとめる。

[ref.2] 提案への応答

① “Sounds great.”

肯定的な応答。感情的で積極的な響きがある。“That (それは) great (素晴らしいこと) sounds (のように思える)” の略。口語では①の略語表現の方が多く使われる。“Sounds good.” や “That sounds good.” が使われることもあるが、①よりも冷静な響きがあるため積極性に欠ける¹¹⁾。

② “That’s a great idea.”

肯定的な応答。感情的で積極的な響きがある。

“That’s a good idea.” が使われることもあるが、②よりも冷静であるため積極性に欠ける。この相違は “Sounds great.” と “Sounds good.” の相違と同様。

③ “Why not?”

肯定的な応答。本来 “why (なぜ) not (そうしないのか)” という否定の疑問文。これが反語になって「～しましょう」という意味の肯定的な提案を表すことがある。反語であるため、感情的で積極的な響きがある。

④ “All right.”

肯定的な応答。「いいよ」や「かまわないよ」というニュアンス。気軽で消極的な響きがある。

⑤ “OK.”

肯定的な応答。④と同じニュアンス。④よりさらに軽い響きがある。

⑥ “Yes, let’s.”

「はい、そうしましょう」という意味の肯定的な応答。冷静で積極性に欠けるため、映画をいっしょに見に行くというような楽しいことが提案された場合の応答として使われることは一般にない。仕事や義務として行わなくてはいけないことが提案された場合なら⑥が使われることがある。例えば、“We have to take the first train tomorrow, so shall we meet at the station before six?” (明日は始発列車に乗りなくてはいけないから、6時前に駅で会いましょうか) に対して “Yes, let’s.” (はい、そうしましょう) と応えることがある。冷静で積極性に欠けるという点では否定の応答 “No, let’s not.” (いいえ、そうするのはやめましょう) も同様。

⑦ “Well…”

否定的な応答。「ええと」や「あのう」というためらいを込めて使われる。相手の提案を受け入れるときは①②③のような積極的な応答をすることが多いため、⑦のようなあいまいな応答をすれば相手からの提案を受け入れないことを間接的に示すことになる。暗示的である点で婉曲的でやわらかい。

⑧ “I wish I could but ~”

“I (私が) could (できると) wish (いいのです) but (が)” という否定的な応答。wish が提案を受け入れたいという願望、仮定法過去 could が「できるといい」という強い感情と「できない」という現実を示している。残念に思う気持ちが言外に込められるため、間接的で丁寧な応答になる。

⑨ “I’m sorry but ~”

“I (私は) am sorry (申し訳なく思うのです) but (が)” という否定的な応答。謝罪のことばで断る

気持ちを伝えるため、間接的で丁寧な響きがある。“Sorry but ~.”でも同じニュアンスになるが、より軽い響きがある。

⑩ “I’m not sure about that.”

“I (私は) about that (それについては) am not sure (よくわかりません)” という否定的な応答。あいまいな言い方で断る気持ちを伝えるため、間接的で丁寧。

⑪ “Thank you.”

感謝の気持ちを込めた丁寧な応答。提案を受け入れるときだけでなく提案を断るときにも使われる。例えば、“Would you like some more coffee?” (コーヒーのお代わりはいかがですか) と相手が言ったときに、“Oh, thank you. But I’ve had enough.” (ああ、ありがとうございます。でも、もう十分いただきました) と言って断る気持ちを伝えることがある。

相手がものや行為を提案した場合には、一般に提案してくれた相手の気持ちを考慮しながら丁寧に応答することになる。したがって、相手の提案を断る場合には、⑦⑧⑨⑩⑪などのうちの一つを使うのではなく、⑦⑧⑨⑩⑪などを組み合わせながら相手の提案を断る理由や相手の提案に代わる提案などを添えることが多い。例えば、“Let’s go to the cinema tonight together.” (今晚いっしょに映画を見に行こうよ) と相手が言ったときには、“Well… I wish I could, but I have to work overtime tonight. How about tomorrow?” (ええと… 行ければいいんだけど、今晚残業があるんだ。明日はどうか) のように応えることがある。

3. 提案される行為の意味上の主語

この章では、① “Let’s ~.” / ② “Shall we ~?” / ③ “Why don’t we ~?” / ④ “What do you say to ~?” / ⑤ “How about ~?” / ⑥ “What about ~?” / ⑦ “Why don’t you ~?” / ⑧ “Would you like ~?” / ⑨ “Do you want ~?” / ⑩ “Shall I ~?” / ⑪ “Would you like me ~?” / ⑫ “Do you want me ~?” で提案される行為の意味上の主語が誰であるのか考察する。

② “Shall we ~?” / ③ “Why don’t we ~?” / ⑦ “Why don’t you ~?” / ⑩ “Shall I ~?” では提案される行為が述語動詞で述べられ、⑧ “Would you like ~?” / ⑨ “Do you want ~?” では提案される行為が目的語で述べられ、① “Let’s ~.” / ⑪ “Would you like me ~?” / ⑫ “Do you want me ~?” では提案される行為が目的格補語で述べられる。したがって、その行為の意味上の主語は明らかである¹²⁾。

一方、④ “What do you say to ~?” / ⑤ “How about ~?”

/ ⑥ “What about ~?” は提案される行為が前置詞 to や前置詞 about に続く動名詞で述べられる。そのため、提案される行為の意味上の主語は明らかであるとは言えない。そこで、以下では、提案される行為の意味上の主語が we (話し手と相手) や you (相手) である③ “Why don’t we ~?” や⑦ “Why don’t you ~?” と比較しながら、④ “What do you say to ~?” / ⑤ “How about ~?” / ⑥ “What about ~?” で提案される行為の意味上の主語について考察する。

[ex.1](3) では① “Let’s ~.” の代わりに③ “Why don’t we ~?” / ④ “What do you say to ~?” / ⑦ “Why don’t you ~?” を使っても、話し手が相手といっしょに映画を見に行くことを提案することができる。その場合に用いられる表現として自然なものや一般的なもの、あるいは、その場合に用いられる表現として自然でないものや一般的でないもの (あるいは、[ex.1](3) のような状況以外の特定の状況でしか用いられないもの) を [ref.3] に挙げる。なお、[ref.3] では自然でないものや一般的でないものの文頭に * が付与されている。

[ref.3] いっしょに映画を見に行くことを提案するときの表現

③ “Why don’t we ~?”

(a) “Then, *why don’t we go* to the cinema together?”¹³⁾

(b)* “Then, *why don’t we come* to the cinema together?”

(c)* “Then, *why don’t we go* to the cinema with me?”

(d)* “Then, *why don’t we come* to the cinema with me?”

④ “What do you say to ~?”

(a) “Then, *what do you say to going* to the cinema together?”

(b)* “Then, *what do you say to coming* to the cinema together?”

(c)* “Then, *what do you say to going* to the cinema with me?”

(d) “Then, *what do you say to coming* to the cinema with me?”

⑦ “Why don’t you ~?”

(a)* “Then, *why don’t you go* to the cinema together?”

(b)* “Then, *why don’t you come* to the cinema together?”

(c)* “Then, *why don’t you go* to the cinema with me?”

(d) “Then, *why don’t you come* to the cinema with me?”

together は複数の者がいっしょに行動することを意味する副詞である。そのため、together は we のような複数 (代) 名詞が主語の場合に使われ、you のような単数 (代) 名詞が主語の場合には使われることはない¹⁴⁾。したがって、we を主語として together を用いる③ (a) “Then, *why don't we go to the cinema together?*” は自然な表現になり、you を主語として together を用いる⑦ (a) “Then, *why don't you go to the cinema together?*” や⑦ (b) “Then, *why don't you come to the cinema together?*” は自然な表現にならない。

with me は話し手以外の者が話し手といっしょに行動することを意味する副詞句である。そのため、with me は you のような話し手以外の者が主語の場合に使われ、話し手を含む we が主語の場合に使われることはない。したがって、you を主語として with me を用いる⑦ (d) “Then, *why don't you come to the cinema with me?*” は自然な表現になり、we を主語として with me を用いる③ (c) “Then, *why don't we go to the cinema with me?*” や③ (d) “Then, *why don't we come to the cinema with me?*” は自然な表現にはならない。

go は基点から離れて「行く」ことを意味する動詞である。したがって、③ (a) “Then, *why don't we go to the cinema together?*” は、必ずしも映画を見に行くときまだ決めてはいない話し手が、相手といっしょに映画を見に行くことを提案するときに使われる。また、③ (a) は we と together が使われるため、we (話し手と相手) がひとまとめになって together (いっしょに) 行動するというニュアンスがある。そのため、③ (a) は話し手と相手の間に距離感がない親しみのある表現になる。

⑦ (c) “Then, *why don't you go to the cinema with me?*” は誤った表現ではないが、[ex.1](3) で一般に使われる表現ではない。一般的な表現である③ (a) “Then, *why don't we go to the cinema together?*” と比べると、⑦ (c) では we が敢えて you と with me に分けて表されていることになるため、you や with me が強調されることになる。したがって、⑦ (c) が使われるのは、例えば、“*Other people go to the cinema with me, so why don't you?*” (他の人たちが私と映画を見に行くのだから、君も行こうよ) というニュアンスで other people (他の人たちが) が映画を見に行くことと you (相手) が映画を見に行くことを対比して述べる場合や、“*You go to the cinema with other people, so why don't you go with me?*” (君は他の人たちと映画を見に行くのだから、私ともいっしょに行こうよ) というニュアンスで with other people (他の人たちといっしょに) 映画を見に行くことと with me (話し手といっしょに) 映画を見に行くことを対比して述べる場合など、特定の場合に限られる。

come は基点に近づいて「来る」ことを意味する動詞で

ある¹⁵⁾。したがって、⑦ (d) “Then, *why don't you come to the cinema with me?*” は、映画を見に行くとき決めていた話し手が、映画を見に来る (来る) ように相手に提案しているときに使われる¹⁶⁾。また、⑦ (d) は you と with me が使われているため、you (相手) が話し手の行動に合わせて with me (話し手といっしょに) 行動するように提案していることになる。したがって、相手がわざわざ話し手のために来てくれるように頼んでいるような丁寧な表現になる。

③ (b) “Then, *why don't we come to the cinema together?*” は誤った表現ではないが、[ex.1](3) で一般に使われる表現ではない。③ (b) のように we を主語にして come を使えば、映画を見る場所を基点として we (話し手と相手) がいっしょに映画を見に来る (来る) ことを表すことになる。したがって、③ (b) が使われるのは、we (話し手と相手) が映画館でいっしょに映画を見ていて、“Then, *why don't we come to the cinema together again?*” (私とあなたでもう一度いっしょに映画を見に来るのはいかがでしょうか) というニュアンスでもう一度映画を見に来ることを提案するときなど、特定の場合に限られる。

以上のことから、[ex.1](3) では③ (a) “Then, *why don't we go to the cinema together?*” と⑦ (d) “Then, *why don't you come to the cinema with me?*” が一般的な表現になる。そして、we と go と together を用いる③ (a) は話し手が映画を見に行くとき必ずしも決めてはいない場合に使われ、you と come と with me を用いる⑦ (d) “Then, *why don't you come to the cinema with me?*” は話し手が映画に行くことを決めている場合に使われる。どちらの表現が使われるかは、発話時の状況や発話時の話し手の気持ち次第である。

③ (a) “Then, *why don't we go to the cinema together?*” が一般的な表現になるのと同様の理由から、同じ go と together を用いる④ (a) “Then, *what do you say to going to the cinema together?*” が一般的な表現になると考えられる。そして、③ (a) で提案される行為 “go to the cinema together” の主語が we (話し手と相手) であることから、④ (a) で提案される行為 “going to the cinema together” の意味上の主語は we (話し手と相手) であると考えられる。また、③ (b) “Then, *why don't we come to the cinema together?*” や⑦ (b) “Then, *why don't you come to the cinema together?*” が一般的な表現にならないのと同じ理由から、同じ come と together を用いる④ (b) “Then, *what do you say to coming to the cinema together?*” は一般的な表現にならないと考えられる。

⑦ (d) “Then, *why don't you come to the cinema with me?*” が一般的な表現になるのと同様の理由から、同じ come と with me を用いる④ (d) “Then, *what do you say to coming to the cinema with me?*” が一般的な表現になると考えられる。そして、⑦ (d) で提案される行為

“come to the cinema with me”の主語がyou(相手)であることから、④(d)で提案される行為“coming to the cinema with me”の意味上の主語はyou(相手)であると考えられる。また、③(c)*“Then, *why don't we go* to the cinema *with me*?”や⑦(c)*“Then, *why don't you go* to the cinema *with me*?”が一般的な表現にならないのと同じ理由から、同じgoとwith meを用いる④(c)*“Then, *what do you say to going* to the cinema *with me*?”は一般的な表現にならないと考えられる。

ここまでの議論は他の提案の表現においても同様である。つまり、提案される行為の意味上の主語がwe(話し手と相手)になる①“Let's ~.” / ②“Shall we ~?”は③“Why don't we ~?”と同様であり、提案される行為の意味上の主語がyou(相手)になる⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?”は⑦“Why don't you ~?”と同様であり、提案される行為を動名詞で表す⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?”は④“What do you say to ~?”と同様である。

この章の要点を[ref.4]にまとめる。[ref.4]においてweは提案される行為の意味上の主語がwe(話し手と相手)であること、youは提案される行為の意味上の主語がyou(相手)であること、Iは提案される行為の意味上の主語がI(話し手)であることを示している。また、[ref.4]において○はそれぞれに当てはまることを、—はそれぞれに当てはまらないことを示している。

[ref.4] 述べられる行為の意味上の主語	we	you	I
①“Let's ~.”	○	—	—
②“Shall we ~?”	○	—	—
③“Why don't we ~?”	○	—	—
④“What do you say to ~?”	○	○	—
⑤“How about ~?”	○	○	—
⑥“What about ~?”	○	○	—
⑦“Why don't you ~?”	—	○	—
⑧“Would you like ~?”	—	○	—
⑨“Do you want ~?”	—	○	—
⑩“Shall I ~?”	—	—	○
⑪“Would you like me ~?”	—	—	○
⑫“Do you want me ~?”	—	—	○

①“Let's ~.” / ②“Shall we ~?” / ③“Why don't we ~?”で提案される行為の意味上の主語はwe(話し手と相手)であり、⑦“Why don't you ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?”で提案される行為の意味上の主語はyou(相手)であり、⑩“Shall I ~?” / ⑪“Would you like me to ~?” / ⑫“Do you want me to ~?”で提案される行為の意味上の主語はI(話し手)である。

提案される行為を動名詞で示す④“What do you say to

~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?”では、目的格や所有格の(代)名詞で動名詞の意味上の主語を示していない限り、提案される行為の意味上の主語がwe(話し手と相手)あるいはyou(相手)になると考えられる。例えば、[ex.1](3)で“Then, *what do you say to going* to the cinema together?”と言え、提案される行為“going to the cinema together”の意味上の主語はwe(話し手と相手)になり、[ex.1](3)で④(d)“Then, *what do you say to coming* to the cinema with me?”と言え、提案される行為“coming to the cinema with me”の意味上の主語はyou(相手)になる。

なお、④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?”で意味上の主語がI(話し手)になる行為を示す場合は、動名詞の前にmeやmyを置いて動名詞の意味上の主語を特定するのが一般的である。例えば、[ex.2](3)で“*Shall I drive* you home?”と同じ内容を表す場合には、“*What do you say to driving* you home?” / “*How about driving* you home?” / “*What about driving* you home?”よりも、動名詞drivingの前にmeやmyを置いて“*What do you say to me driving* you home?” / “*How about me driving* you home?” / “*What about me driving* you home?”と言うのが一般的である¹⁷⁾。

4. 提案される行為の意味上の主語がyouである表現が用いられる状況

⑦“Why don't you ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?”は提案される行為の意味上の主語がyou(相手)である。また、④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?”は提案される行為の意味上の主語がyou(相手)になることがある。この章では、このように提案される行為の意味上の主語がyou(相手)である表現がどのような状況で使われるのかを検証する。

[ex.3] AとBの会話。AとBは親しい友人同士。

A: (1) “Jane.” (ジェーン)

B: (2) “Yes?” (何?)

A: (3) “*Would you like* some more coffee?” (もっとコーヒーはどう?)

B: (4) “Oh, thank you.” (ああ、ありがとう)

[ex.3](3)でAはBに“Jane, *would you like* some more coffee?”と言って、相手がコーヒーのお代わりをもらうことを提案している¹⁸⁾。そして、[ex.3](4)でBは“Oh, thank you.”と応えて、その提案を受け入れている。

[ex.3](3)では“*Would you like* some more coffee?”の代わりに“*What do you say to having* some more coffee?” / “*How about* some more coffee?” / “*What about* some more coffee?” / “*Why don't you have* some more coffee?” / “*Do you want* some more coffee?”と言っ

でも、同じように相手がコーヒーのお代わりをもらうことを提案していることになる¹⁹⁾。このように、相手がものの提供を受けることを提案するときには、④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?” / ⑦“Why don't you ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” が使われることがある。

[ex.4] A と B の会話。A と B は親しい友人同士。

A: ① “John, we are having a birthday party for Linda this Friday. *Would you like to come over?*” (ジョン、今度の金曜日にリンダの誕生日パーティーをするんだ。来ないか)

B: ② “Why not? What time is it starting?” (いいね。何時に始まるの)

[ex.4](1) で A は B に “*Would you like to come over?*” と言って、パーティーに来るように提案している。そして、[ex.4](2) で B は “Why not?” と応えて、A からの提案を受け入れている。したがって、この後 A は B をパーティーに招くための手配をすることになる。このように提案の後の話し手の行動を含めて考えれば、[ex.4](1) では話し手の手配を必要とする相手の行為が提案されていることになる。

[ex.4](1) では “*Would you like to come over?*” の代わりに “*What do you say to coming over?*” / “*How about coming over?*” / “*What about coming over?*” / “*Why don't you come over?*” / “*Do you want to come over?*” と言っても、同じようにパーティーに来るように相手に提案していることになる。このように、話し手の手配を必要とする相手の行為を提案するときには、④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?” / ⑦“Why don't you ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” が使われることがある。

[ex.5] A と B の会話。A と B は親しい友人同士。

A: ① “Paul, I can't figure out how to solve this math problem at all. Do you have any idea?” (ポール、この数学の問題の解き方がどうしてもわからないんだ。君はわかるかな)

B: ② “Well... I'm not very good at math. *How about asking Mark?* He is a math genius.” (ああ...僕は数学があまり得意じゃないんだ。マークにきいてみたら。彼は数学の天才だからね)

[ex.5](1) で A は B に “Paul, I can't figure out how to solve this math problem at all. Do you have any idea?” と言って、数学の問題の解き方がわからないことを伝えている。そして、[ex.5](2) で B は “Well... I'm not good at math. *How about asking Mark?*” と言って、Mark に尋ねてみることを提案している。この後 A が B の提案を受

け入れれば、Mark に数学の問題について尋ねることになる。この場合、数学の問題について Mark に尋ねるのは A であり、その行為は B の手配を必要としない。このように提案の後の話し手の行動を含めて考えれば、[ex.5](1) では話し手の手配を必要としない相手の行為が提案されていることになる。

[ex.5](2) では “*How about asking Mark?*” の代わりに “*What about asking Mark?*” / “*Why don't you ask Mark?*” と言っても、同じように Mark に尋ねることを相手に提案していることになるが、“*What do you say to asking Mark?*” / “*Would you like to ask Mark?*” / “*Do you want to ask Mark?*” と言うことは一般にない。したがって、話し手の手配を必要としない相手の行為が提案されるときには、⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?” / ⑦“Why don't you ~?” が使われることはあるが、④“What do you say to ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” が使われることはないことになる。

5. 提案の表現が用いられる状況の相違

ここまで①“Let's ~.” / ②“Shall we ~?” / ③“Why don't we ~?” / ④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?” / ⑦“Why don't you ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” / ⑩“Shall I ~?” / ⑪“Would you like me ~?” / ⑫“Do you want me ~?” がどのような状況で使われるのかを考察してきた。それぞれが使われる状況の相違を [ref.5] にまとめる。

[ref.5] において [ex.1] は [ex.1](3) “Let's go to the cinema together.” のように話し手と相手がいっしょに行う行為を提案するとき、[ex.2] は [ex.2](3) “Shall I drive you home?” のように話し手が相手のために行う行為を提案するとき、[ex.3] は [ex.3](3) “Would you like some more coffee?” のように相手がものの提供を受けることを提案するとき、[ex.4] は [ex.4](1) “Would you like to come over?” のように話し手の手配を必要とする相手の行為を提案するとき、[ex.5] は [ex.5](2) “How about asking Mark?” のように話し手の手配を必要としない相手の行為を提案するときを示している。また、○はそれぞれの場合に使われることを、一はそれぞれの場合に使われないことを示している。

①“Let's ~.” / ②“Shall we ~?” / ③“Why don't we ~?” は提案される行為の意味上の主語が we (話し手と相手) である。したがって、[ex.1](3) のように we (話し手と相手) がいっしょに行う行為を提案するときに限って使われ、[ex.2](3) や [ex.4](1) / [ex.5](2) のように I (話し手) の行為や you (相手) の行為を提案するとき、[ex.3](3) のように you (相手) がものの提供を受けることを提案するときなど、他の状況で使われることはない。

⑩“Shall I ~?” は “I (私が) shall (しましようか)”

[ref.5] 提案の表現が用いられる状況の相違					
	[ex.1]	[ex.2]	[ex.3]	[ex.4]	[ex.5]
① “Let’s ~ .”	○	—	—	—	—
② “Shall we ~ ?”	○	—	—	—	—
③ “Why don’t we ~ ?”	○	—	—	—	—
④ “What do you say to ~ ?”	○	—	○	○	—
⑤ “How about ~ ?”	○	—	○	○	○
⑥ “What about ~ ?”	○	—	○	○	○
⑦ “Why don’t you ~ ?”	○	—	○	○	○
⑧ “Would you like ~ ?”	○	—	○	○	—
⑨ “Do you want ~ ?”	—	○	—	—	—
⑩ “Shall I ~ ?”	—	○	—	—	—
⑪ “Would you like me ~ ?”	—	○	—	—	—
⑫ “Do you want me ~ ?”	—	—	○	—	—

という質問であり、⑪ “Would you like me ~ ?” や⑫ “Do you want me ~ ?” は本来 “you (あなたは) me (私が~するのを) would like (好みますか)” や “you (あなたは) me (私に~して) want (ほしいですか)” という質問である。このように話し手の行為に関して相手の意向や相手の望みを尋ねる質問であるため、⑩ “Shall I ~ ?” / ⑪ “Would you like me ~ ?” / ⑫ “Do you want me ~ ?” は [ex.2](3) のように I (話し手) が相手のために行う行為を提案するときに限って使われ、[ex.1](3) のように we (話し手と相手) がいっしょに行う行為を提案するとき、[ex.3](3) のように you (相手) がものの提供を受けることを提案するとき、[ex.4](1) / [ex.5](2) のように you (相手) の行為を提案するときなど、他の状況で使われることはない。

④ “What do you say to ~ ?” は提案される行為の意味上の主語が we (話し手と相手) になることはあるが、I (話し手) になることはない。したがって、④ “What do you say to ~ ?” は [ex.1](3) のように we (話し手と相手) がいっしょに行う行為を提案するときに使われることはあるが、[ex.2](3) のように相手のために I (話し手) が行う行為を提案するときに使われることはない。

また、④ “What do you say to ~ ?” は提案される行為の意味上の主語が you (相手) になることがある。したがって、提案される行為の意味上の主語の点から考えれば、you (相手) の行為を表す場合には使うことができることになる。しかし、[ex.3](3) のように you (相手) がものの提供を受けることを提案するときや [ex.4](1) のように話し手の手配を必要とする you (相手) の行為を提案するときには使われるが、[ex.5](2) のように話し手の手配を必要としない you (相手) の行為を提案するときには使われることはない。これはなぜだろうか。

[ex.3](3) では相手がコーヒーのお代わりをもらうことが提案されている。この場合、相手がその提案を受け入れ

ば、話し手が相手にコーヒーを提供することになる。また、[ex.4](1) では相手が話し手の家に来ることが提案されている。この場合、相手がその提案を受け入れれば、話し手が相手をパーティに招く手配をすることになる。[ex.3](3) でも [ex.4](1) でも、提案の実行に話し手の行動は不可欠である。したがって、[ex.3](3) と [ex.4](1) では話し手の行動が不可欠なものや行為が提案されていることになる。

一方、[ex.5](2) では数学の問題に関して Paul に尋ねることが提案されている。この場合、相手がその提案を受け入れても、Paul に数学の問題に尋ねることになるのは相手であり、その相手の行為に話し手の行動は必ずしも必要ではない。

以上のように考えるなら、[ex.3](3) と [ex.4](1) では話し手の行動の関与があるものや行為が提案され、[ex.5](2) では話し手の行動の関与がない行為が提案されていることになる。したがって、④ “What do you say to ~ ?” は前者において使われ、後者において使われないことになる。このように④ “What do you say to ~ ?” が話し手の行動の関与のある場合に限って使われるのは、話し手の行動の関与を必ず伴うほどの強い積極性があるためと考えられる。

⑤ “How about ~ ?” や⑥ “What about ~ ?” では提案される行為の意味上の主語が we (話し手と相手) や you (相手) になることはあるが、I (話し手) になることはない。したがって、⑤ “How about ~ ?” や⑥ “What about ~ ?” は [ex.1](3) のように we (話し手と相手) がいっしょに行う行為を提案するとき、[ex.3](3) のように you (相手) がものの提供を受けることを提案するとき、[ex.4](1) や [ex.5](2) のように you (相手) の行為を提案するときに使われることがあるが、[ex.2](3) のように I (話し手) の行為を提案するときに使われることはない。

なお、⑤ “How about ~ ?” や⑥ “What about ~ ?” は④ “What do you say to ~ ?” と異なり、[ex.3](3) や [ex.4](1) のように話し手の行動の関与があるものや行為が提案される場合にも、[ex.5](2) では話し手の行動の関与がない行為が提案される場合にも使われることがある。このように話し手の行動の関与の有無に関りなく使われるのは、⑤ “How about ~ ?” や⑥ “What about ~ ?” が “about (について) how (どうですか)” や “about (について) what (何を思いますか)” という漠然とした質問であり、話し手の行動の関与を伴うほどの強い積極性がないためであると考えられる。

⑦ “Why don’t you ~ ?” は you (相手) を主語として you (相手) の行為を提案する表現である。したがって、

[ex.2](3)のように you (相手) のための I (話し手) の行為を提案するときに使われることはないが、[ex.1](3)のように we (話し手と相手) がいっしょに行う行為を提案するときには with meなどを伴って使われることがある。

また、⑦“Why don't you ~?” は you (相手) を主語として you (相手) の行為を提案する表現であるため、[ex.3](3)のように you (相手) がものの提供を受けることを提案するとき、[ex.4](1) や [ex.5](2) のように you (相手) の行為を提案するときに使われることがある。このように話し手の行動の関与の有無に関りなく使われるのは、⑦“Why don't you ~?” が反語によって you (相手) のすべきことを提案する表現であり、その提案に必ずしも話し手の行動の関与が必要ではないためと考えられる。

⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” は you (相手) を主語として you (相手) の望むものや you (相手) の行為を提案する表現である。したがって、⑦“Why don't you ~?” と同様、[ex.2](3) のように you (相手) のための I (話し手) の行為を提案するときに使われることはないが、[ex.1](3) のように we (話し手と相手) がいっしょに行う行為を提案するときには with meなどを伴って使われることがある。

また、④“What do you say to ~?” と同様、⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” は [ex.3](3) や [ex.4](1) のように話し手の行動の関与があるものや行為を提案する場合に使われ、[ex.5](2) のように話し手の行動の関与がない行為を提案する場合に使われることはない。この点から考えると、⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” にはどのようなニュアンスがあることになるのだろうか。

⑧“Would you like ~?” や⑨“Do you want ~?” は本来“you(あなたは) would like(~を好みますか)”や“you(あなたは) want (~をほしいですか)”という相手の望みを尋ねる質問である。この本来の内容と話し手の行動に関与のあるものや行為が提案される場合に限って使われることを考え合わせると、⑧“Would you like ~?” や⑨“Do you want ~?” は、話し手が相手にもものを提供できる状況で「あなたは~を望みますか(そうであるなら私が~を提供します)」と尋ねるニュアンス、あるいは、話し手が相手の行動のための手配をできる状況で「あなたは~を望みますか(そうであるなら私が~を手配します)」と尋ねるニュアンスがあることになる²⁰⁾。

このニュアンスをそれぞれの状況に当てはめて解釈すると、[ex.3](3)で“Would you like some more coffee?”や“Do you want some more coffee?”と言え、相手にコーヒー

のお代わりを提供できる用意ができていて「あなたはコーヒーのお代わりを望みますか(そうであるならコーヒーのお代わりを私が提供します)」と尋ねていることになる。また、[ex.4](1)で“Would you like to come over?”や“Do you want to come over?”と言え、家で開くパーティーに相手に来るための手配をできる状況で「あなたはうちに来ることを望みますか(そうであるならあなたが家に来る手配を私がします)」と尋ねていることになる。このようなニュアンスが [ex.3](3) や [ex.4](1) の状況に適しているため、どちらも自然な表現になると考えられる。

一方、[ex.5](3)で“Would you like to ask Mark?”や“Do you want to ask Mark?”と言え、相手が Mark に数学の問題について尋ねるための手配を話し手ができる状況で「あなたはマークに尋ねることを望みますか(そうであるならあなたがマークに尋ねられるように私が手配します)」と尋ねていることになる。このニュアンスが [ex.5](3) の状況に適していないため、どちらも自然な表現にならないと考えられる。

注 釈

- ①“Let's ~.” / ②“Shall we ~?” / ③“Why don't we ~?” / ④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?” / ⑦“Why don't you ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” / ⑩“Shall I ~?” / ⑪“Would you like me ~?” / ⑫“Do you want me ~?” に関しては2回に分けて論じることとする。今回の「口語英語研究(10)提案の表現(1)」では、上の12の表現が提案を表す場合について論じ、次回の「口語英語研究(11)提案の表現(2)」では上の12の表現が提案以外の意味を表す場合について論じる。
- 「映画を見に行く」という意味で、イギリス英語では“go to the cinema”と言うことが多く、アメリカ英語では“go to the movies”と言うことが多い。このようにイギリス英語とアメリカ英語で異なる表現が使われる場合、本稿ではイギリス英語に従うことにする。
- go と come の相違や together と with you の相違に関しては第3章を参照。
- “Let's ~.” は「~しましょう」という一方的な提案であるため、相手からの応答を求めることなく使われることがある。例えば、小学校で授業の終わりに教師が生徒たちに“OK, boys and girls, that's all for today. Let's meet all of you next week. Have a nice weekend.”(それでは皆さん、今日はこれで終わりにします。また来週会いしましょう。よい週末を迎えてください)と言え、生徒たちが“You

- too, Miss Smith.” (先生もよい週末を) のように応えることがある。この “You too, Miss Smith.” は “Have a nice weekend.” という別れの挨拶への応答である。そのため、この場合には “Let’s meet all of you next week.” に対する応答が述べられていないことになる。
- 5) 例えば、初めて会った人に “Excuse me, shall we dance?” と言えば、「すみませんが、いっしょに踊っていただけますでしょうか」のようなかたい話し方をしていることになる。一方、親しい友人に “Maggie, shall we dance?” と言えば、「マギー、いっしょに踊ろうか」のようなやわらかな話し方をしていることになる。どのような響きになるのかは、話し手と相手の人間関係、話し手の話し方、話し手の表情、会話が行われる場所など、発話が行われるときの状況次第である。
- 6) “Do you like ~?” は永続的な好みを尋ねる質問であり、⑧ “Would you like ~?” や⑨ “Do you want ~?” は一時的な相手の望みを尋ねる質問である。例えば、“Do you like coffee?” と言えば「あなたは (いつも) コーヒーが好きですか」という普段の相手の好みを尋ねる質問になり、“Would you like some more coffee?” や “Do you want some more coffee?” と言えば「あなたは (今) コーヒーのお代わりはいかがですか」という発話時の相手の望みを尋ねる質問になる。
- 7) “Would you like some more coffee?” と “Do you want some more coffee?” は「もっとコーヒーはいかがですか」という同じ内容を表す。ただし、一般に、レストランでウェイトーが客にコーヒーのお代わりをすすめる場合には前者が使われ、後者が使われることはない。これはウェイトーが客に対して丁寧な話し方をする必要があるため。一方、一般に、親しい友人にコーヒーのお代わりをすすめる場合には前者も後者も使われる。この場合、前者ではやわらかく丁寧な話し方をしていることになり、後者では率直で気軽な話し方をしていることになる。この⑧ “Would you like ~?” と⑨ “Do you want ~?” の相違は⑪ “Would you like me ~?” と⑫ “Do you want me ~?” の相違に等しい。
- 8) 例えば、高校生が教師に “Shall I close the window?” と言えば、「窓を閉めましょうか」のようなかたい話し方をしていることになる。一方、親しい友人に “Shall I close the window?” と言えば、「窓を閉めようか」のようなやわらかな話し方をしていることになる。どのような響きになるのかは、話し手と相手の人間関係、話し手の話し方、話し手の表情、会話が行われる場所など、発話が行われるときの状況次第である。
- 9) “I want ~.” や “I would like you to ~.” や “I want you to ~.” は相手への命令に近い響きを持つことがあるが、“Would you like me to ~?” や “Do you want me to ~?” はそのような強い響きを持つことはない。これは前者が I (話し手) の want (欲求) や like (好み) を表す肯定文である一方、後者が you (相手) の like (好み) や want (欲求) を尋ねる疑問文であるため。前者の命令に近い響きに関しては木戸充・Sanderson, S. J. (2015). の第2章 “I want ~.” と I would like ~.” の比較」を参照。
- 10) 例えば、「窓を閉めましょうか」という意味で、高校生が高校の教師に “Would you like me to close the window?” と言うことは考えられるが、“Do you want me to close the window?” と言うことは一般に考えにくい。これは敬意を払うべき教師への話し方としては “Do you want me to ~?” が直接的で率直過ぎるため。
- 11) 一般に、映画をいっしょに見に行くというような楽しい提案に対して “Sounds good.” や “That sounds good.” と応えることは多くない。なぜなら、このような積極性に欠ける応答をすれば、相手の期待に応えようとしない無愛想な話し方をしているようにも聞こえるため。great / good / nice の相違に関しては木戸充・Sanderson, S. J. (2012). の第6章 “Have a good day. や Have a nice day. など」を参照。
- 12) ⑬ “Let us ~.” の略である “Let’s ~.” は提案される行為が us に続く目的格補語で述べられるため、その行為の意味上の主語は目的語 us (話し手と相手) である。⑭ “Shall we ~?” / ⑮ “Why don’t we ~?” / ⑯ “Why don’t you ~?” / ⑰ “Shall I ~?” は提案される行為が we / you / I に続く述語動詞で述べられるため、その行為の意味上の主語は主語 we (話し手と相手) / you (相手) / I (話し手) である。⑱ “Would you like ~?” / ⑲ “Do you want ~?” は提案される行為が like に続く目的語で述べられるため、その行為の意味上の主語は主語 you (相手) である。⑳ “Would you like me ~?” / ㉑ “Do you want me ~?” は提案される行為が me に続く目的格補語で述べられるため、その行為の意味上の主語は目的語 me (話し手) である。
- 13) we を主語とすれば「いっしょに」行くことは明らかである。したがって、together を使わずに “Then, why don’t we go to the cinema?” と言うことも多い。また、⑳ (a) のように together を使えば「いっしょに」行くことが強調されることになる。together の有無による相違に関しては他の表現でも同様である。
- 14) you が2人以上の「あなたたち」を指す場合なら、㉒ (a) “Then, why don’t you go to the cinema together?” と言うこともある。ただし、この場合に

は you が複数の「あなたたち」を指すことになり、「では、(私は行かないが) you (あなたたち) がいっしょに映画を見に行ってみたらどうですか」ということを意味することになる。したがって、[ex.1](3)のように話し手と相手がいっしょに映画を見に行くことを提案するときに使われることはない。

- 15) 例えば、「昨晚彼が(話し手以外の者が開いた)パーティーに行った」という意味では“*He went to the party last night.*”とすることがある。この場合 go の過去形 went が使われるのは、基点が he (彼) がいた場所であり、その場所から離れて went (行った) ことを表すためである。一方、「昨晚彼が(話し手が開いた)パーティーに来た」という意味では“*He came to the party last night.*”とすることがある。この場合 come の過去形 came が使われるのは、基点が話し手がパーティーを開いた場所であり、he (彼) がその場所に近づいて came (来た) ことを表すためである。
- 16) 話し手が映画を見に行くことを決めている場合に come が使われることを考えれば、come には with me の意味が含まれていることになる。したがって、with me を使わずに“*Then, why don't you come to the cinema?*”とすることも多い。また、③(a)のように with me を使えば「私といっしょに」行くことが強調されることになる。with me の有無による相違に関しては他の表現も同様。
- 17) “*Shall I drive you home?*”と同じ意味で“*How about I drive you home?*”とすることもある。これは“*How about (the situation that) I drive you home?*”という省略と考えられる。
- 18) [ex.3](3)“*Would you like some more coffee?*”では「相手がコーヒーのお代わりをもらうこと」あるいは「話し手が相手にコーヒーのお代わりを与えること」が提案されていると言える。いずれの表現でも表される内容に違いはないが、[ex.3](3)“*Would you like some more coffee?*”では you (相手) が主語であるため、本稿では you (相手) を主語にして「相手がコーヒーのお代わりをもらうこと」や「相手がものの提供を受けること」と記述している。注釈 19) を参照。
- 19) “*How about some more coffee?*” / “*What about some more coffee?*” / “*Would you like some more coffee?*” / “*Do you want some more coffee?*” では、“some more coffee” (コーヒー) を飲むのか、あるいは、“some more coffee” (コーヒーを) 与えるのが動詞で示されていないため、その行為の意味上の主語は不明である。ただし、これらが“*How about having some more coffee?*” / “*What about having some more coffee?*” / “*Would you like to have some more coffee?*” / “*Do you want to have*

some more coffee?” の having や to have が省略されたものであると考えるなら、“*What do you say to having some more coffee?*” や “*Why don't you have some more coffee?*” と同じ内容を表していることになる。したがって、これらの表現では“*You have some more coffee*” (あなたがコーヒーを飲む) という行為が提案されていることになり、その意味上の主語は you (相手) であると考えられる。

- 20) 話し手が手配できる状況で「あなたは～を望みますか(そうであるなら私が～を手配します)」と尋ねるニュアンスがある点で、⑧“*Would you like ~?*” / ⑨“*Do you want ~?*”と⑩“*Shall I ~?*” / ⑪“*Would you like me ~?*” / ⑫“*Do you want me ~?*”は似ている。例えば、[ex.2](3)で“*Shall I drive you home?*” / “*Would you like to drive you home?*” / “*Do you want to drive you home?*”と行うときはいづれも、話し手が相手を車で家まで送ることができる状況で「私があなたを家まで送ることをあなたは望みますか(そうであるなら私があなたを家まで車で送る手配をします)」と言っているニュアンスがある。

参 考 文 献

- ・荒木一雄・安井稔 監修『現代英文法辞典』(1992). 三省堂
- ・石橋幸太郎・広瀬泰三・伊藤健三・高梨健吉・鳥居次好・渡辺藤一 監修『英語語法大辞典』(1990). 大修館
- ・安藤貞夫・福村虎治郎・川上道生・小西友七・三浦新市・空西哲郎・渡辺登士 監修『続・英語語法大辞典』(1986). 大修館
- ・安藤貞夫・福村虎治郎・川上道生・小西友七・三浦新市・空西哲郎・渡辺登士 監修『英語語法大辞典第3集』(1989). 大修館
- ・大塚高信 監修『新英文法辞典』(1970). 三省堂
- ・大塚高信・岩崎民平・中島文雄 監修『英文法シリーズ』(1976). 研究社
- ・小西友七 監修『英語基本動詞辞典』(1980). 研究社出版
- ・木戸充・Sanderson, S. J.(2009).「口語英語研究(1): 人名及び人名相当語句に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』58, pp. 142-154
- ・木戸充・Sanderson, S. J.(2010).「口語英語研究(2): 人と会ったときの挨拶表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』59, pp. 113-124
- ・木戸充・Sanderson, S. J.(2011).「口語英語研究(3): 人名及び人名相当語句に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』60, pp. 105-114
- ・木戸充・Sanderson, S. J.(2012).「口語英語研究(4): Christmas や New Year に関わる表現及び Nice to meet you や Nice meeting you などの挨拶表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』61, pp. 71-86

- ・ 木戸充・Sanderson, S. J.(2013).「口語英語研究 (5) : 人と別れるときの挨拶表現句に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』62, pp. 106-119
- ・ 木戸充・Sanderson, S. J.(2014).「口語英語研究 (6) : 謝罪の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』63, pp. 89-97
- ・ 木戸充・Sanderson, S. J.(2015).「口語英語研究 (7) : 欲求・期待・願望の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』64, pp. 63-75
- ・ 木戸充・Sanderson, S. J.(2016).「口語英語研究 (8) : 命令や依頼の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』65, pp. 39-51
- ・ 木戸充・Sanderson, S. J.(2017).「口語英語研究 (9) : 許可の表現に関して」『日本獣医生命科学大学研究報告』66, pp. 21-31
- ・ *Collins Cobuild English Language Dictionary*(1987), Collins Sons & Co Ltd
- ・ *Longman Dictionary of American English*(1983), Pearson Education Limited
- ・ Hornby, A. S. *Oxford Advanced Learner's Dictionary*(2000), Oxford University Press

Study of Colloquial English (10): Concerning Expressions Showing Suggestion

*Mitsuru KIDO / **Stuart J. SANDERSON

*Laboratory of the English Language
Nippon Veterinary and Life Science University
**Sanderson English School

Abstract

This article is a study on the twelve English expressions which show suggestion: ①“Let’s ~.” / ②“Shall we ~?” / ③“Why don’t we ~?” / ④“What do you say to ~?” / ⑤“How about ~?” / ⑥“What about ~?” / ⑦“Why don’t you ~?” / ⑧“Would you like ~?” / ⑨“Do you want ~?” / ⑩“Shall I ~?” / ⑪“Would you like me ~?” / ⑫“Do you want me ~?” As in Kido and Sanderson’s studies (2009-2017), based on discussions between native speakers of English and Japanese, this study analyzes in what situations the twelve expressions are used and what differences there are between them.

Key words : let’s, shall, suggestion

Bull. Nippon Vet. Life Sci. Univ., **67**, 44-55, 2018.